

千葉県立一宮商業高等学校



Super
Professional
High school

観光教育プログラムの開発と発信

2020年東京オリンピック、サーフィン種目が一宮町で開催され、次期学習指導要領では、教科商業で『観光ビジネス』が新設されます。一宮商業高校は、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの指定を受け、**商業の学びを活かし、地域活性化に取り組める人材育成を目指した教育活動と情報発信**に取り組んでいます。3年間の取り組みで**PDC Aサイクル**を実現します。

観光アフリアイデアのプレゼン

サーフィン国際大会観戦

アイデア考案方法の講演

おもてなしフランの発表

体験型講演会



十二社祭りの聞き取り調査

観光マーケティング塾

英語のアクティブラーニング

地域を知るため町長の講演

専門的機材を使ったCM制作

アプリ甲子園 2018・2019 で活躍



2年連続で決勝進出。
有名企業の審査員の前で
プレゼンをしました。

高校生が小学校でパソコン教室!?

一宮小学校で各学期ごとに開催しています。



インターンシップでキャリア教育



生徒の職業観・勤労観を
育むため2年生全員が
インターンシップに参加
します。

盛んな部活動で学校生活を彩る!!

バスケット部の2年生、
2019年茨城ゆめ国体
千葉県代表に選出され
ました。



オリパラ推進校 パラ選手と交流



パラリンピックアルペン
スキの日本代表
三澤拓選手による講演。

iPad, FreeWi-fi を活用した授業

iPad, Free Wi-Fi を
整備し、ICT機器を
活用した授業に取
組んでいます。



マイクロプラスチック問題に挑む!!



マイクロプラスチック問題の調査研究。
一宮町の
広報誌でも取り上げられ
ました。

大学と連携しアプリを開発!!

電算部では大学教授の講
義をいただき、VRア
プリの開発に挑戦。



令和元年度魅力ある県立学校づくり大賞 応募概要（千葉県立一宮商業高等学校）

1 目的

- ・生徒一人一人の能力、適性の把握に努めながら、その伸長を図り、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を身につけ、変化の激しい社会において、たくましく生きる職業人の育成を目指す。
- ・基礎・基本の教育を重視するとともに、実学としての商業教育を学び、実践的な力を育む。
- ・SPH については、主として教科「商業」の学びを通し、地域観光活性化のために活躍することのできる専門的職業人を育成するために、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて実践・研究する。
- ・地域社会と積極的に関わり、社会の中で自らが果たすことができる役割があることを学ぶ。

2 取組

①SPH による観光教育プログラムの開発

商業の学びを活かし、地域活性化に取り組める人材育成を目指した教育活動と情報発信に取り組んでいる。

②アプリ甲子園 2018・2019 で活躍

1000 以上の作品の中から 10 作品が決勝審査に進出する。2 年連続で勝ち進み、有名企業の審査員の前でプレゼンを行った。

③高校生が小学校でパソコン教室

一宮小学校で、パソコンの使い方や高校生が開発したアプリを体験してもらうなどのパソコン教室を、各学期ごとに開催している。

④インターンシップでキャリア教育

生徒の職業観・労働観を育むため 2 年生全員がインターンシップに参加する。生徒からは「将来について考える機会になった」といった声が聞かれた。

⑤盛んな部活動で学校生活を彩る

様々な部活動が盛んに活動しており、今年度はバスケ部の 2 年生が、2019 年茨城ゆめ国体千葉県代表に選出され、活躍した。

⑥オリパラ推進校 パラ選手と交流

パラリンピックアルペンスキーの日本代表 三澤拓選手の講演を実施した。講演内容は、生徒の心に響き、何事にも挑戦する力をもらうことができた。また、機運を高めるため、一宮中学校吹奏楽部と本校吹奏楽部合同演奏による「波乗れコンサート」を実施した。

⑦iPad、FreeWi-fi を活用した授業

iPad を使ったフィールドワークや校内に新設した Free Wi-Fi で調べ学習を行うなど、ICT 機器を活用した授業に取り組んでいる。

⑧マイクロプラスチック問題に挑む

課題研究の授業で、マイクロプラスチック問題の調査研究に取り組んでいる。一宮町の広報誌でも取り上げられ、地域に情報発信した。

⑨大学と連携しアプリを開発

電算部では大学教授の講義も受け、VR アプリの開発に挑戦した。バランス感覚を養うリハビリに活用されており、医療と情報の関係を学んだ。

3 準備段階の工夫

- ・生徒一人ひとりが興味・関心を持ち主体的に関われるよう、「情報処理」や「マーケティング」、「地域観光」

などの授業で様々な取り組みを計画した。

- ・iPad や校内 Free Wi-Fi など ICT 機器を積極的に活用し、授業や取り組みの効果を高めるように準備した。
- ・オリパラ推進教育やSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)事業などは長期的な活動となるため、PDCAサイクル実現に向けて3年ごと、あるいは各年の中長期計画を立てて取り組んだ。

4 実施段階の工夫

- ・学校での座学だけでなく、積極的に地域社会に出て活動することで、地域住民を良い形で巻き込みながら取り組みの輪を広げた。
- ・一宮町の広報課や関係する大学などと連携し、外部への情報発信に積極的に取り組んだ。
- ・SPHなどの取り組みについて、地域住民や一宮町長、NPO法人、大学教授など様々な有識者の意見や評価を伺いながら実施している。

5 広報活動とその成果

- ・一宮町広報令和元年9月号の表紙に本校の取り組みが掲載されるなど、取り組みを紹介した。
- ・学校ホームページにSPHのページを新設し、活動が実施されるたびに更新し、積極的に情報発信を行った。
- ・全国高等学校産業教育フェアや千葉県産業教育フェアなどで学校の取り組みに関する情報発信を行った。

6 取り組みの反響

- ・外部有識者からは、地域に赴いて積極的に活動することが評価された。
- ・産業教育フェアでの広報活動等の結果、県外の高校から複数の視察依頼がある。

7 成果

- ・SPH については、講演会や体験型学習、プレゼン、地域での活動など、一宮町を中心とした地域や外部機関との連携による取組をすすめており、「観光」に関する学びを推進することができている。
- ・ICT 機器を整備することで、生徒の学ぶ意欲を高められ、アクティブラーニングの実践にもつなげている。
- ・授業で学んだことを、SPH やパソコン教室、マイクロプラスチック問題等の取組に生かし、実際に社会に還元することで、社会に貢献する意義を学び、意欲を高めることができた。
- ・地域社会との積極的な関わりの中で、コミュニケーション能力を養うとともに自己有意性を高めることができた。

8 今後の発展

- ・一宮町をはじめ、地域の振興に寄与するため、観光教育を引き続き推進していく。
- ・一宮町やNPO法人、大学などの関係機関と連携して教育活動に取り組む。
- ・商業に関する研究会や発表会などに参加し、観光教育を始めとした本校の取り組みを県内外に発信する。